

8月30日

## 女子中高生夏の学校2025実施報告書

女子中高生夏の学校2025実行委員会

「女子中高生夏の学校～科学・技術・人との出会い～」(以下、夏学)は、女子中高生が理工系の研究者や技術者、大学生・大学院生との交流を通して理工系への興味や関心を高め、進路選択やキャリア形成について考えを深める2泊3日の合宿型プログラムです。

今年のテーマはprism～ひとつの光から、無限の冒険へ～。プリズムが一つの光を多彩な色に分けるように、悩みなどを持つ生徒が夏学での様々な出会いを通して可能性を持てるようにとの思いが込められています。

2025年からは、会場を国立オリンピック記念青少年総合センター(東京都渋谷区代々木神園町3-1、以下NYC)に移し、8月9日(土)から8月11日(月)にかけて開催しました。女子大学生・大学院生のTA(以下、学生TA)33名と、理工系分野の学会や企業から集まった250名以上のスタッフが運営に携わり、全国29都道府県から参加した90名※(中学3年生:15名、高校1年生:52名、高校2年生:20名、高校3年生:3名)の女子中高生(以下、参加生徒)に対して、理工系の魅力を伝えました。

※高専生は該当する学年に含む。



### <夏学1日目>

開校式後、学生TAの企画(以下学生企画)のアイスブレイク(他己紹介)を通して緊張が和らぎました。



キャリア講演のプログラムでは、川崎治さん（JAXA 宇宙探査イノベーションハブ）より「きぼうのそのさきへ」というタイトルで、「理系的思考」や「コミュニケーションをとり協力し合う」ことの大切さをビデオメッセージでいただきました。



木下琴美さん（日本IBM）からは、留学を通して様々な価値観に触れたことや大学での経験を通して、「なんでもやってみたいことはやってみて！」「今すぐ夢を綺麗な形にする必要はない」「色々な経験をしてから自分の思う方向に進めば大丈夫」といったエールをいただきました。

小松加奈さん（大手食品メーカー技術系総合職×利益改善コンサルタント（個人事業複業））からは、会社員としての経験や副業として個人事業の経験から、「壁にあたっても道は一本ではない」「理系の核は、自分らしく生きられる軸になる」とのお話いただきました。

質疑応答ではSlidoも活用し、多くの質問が寄せられました。





A large group of students, many wearing white lab coats, are seated in a lecture hall, listening attentively to a lecture. The students are arranged in rows, and the room has a wooden panelled wall and a whiteboard in the background.





### <夏学2日目>

二日目は、さまざまな分野の学会や企業の研究者・技術者が実験およびポスター展示を通して、理工系分野の幅広さや研究の面白さ、楽しさを参加生徒に伝えました。

午前は18の理工系の学協会や企業によるさまざまな実験が行われ、参加生徒は科学の魅力を実感しました。



午後は44の団体によるポスター展示（ブースは40）を行いました。参加生徒は研究者・技術者から直接説明を受け、科学や技術の理解を深めました。

ポスター展示の後半では、「進路・キャリア相談カフェ」を並行して開催し、「苦手科目の勉強法」「会社で働く」「文理選択・学部学科選択」などのブースを設け、幅広い相談が行われました。





続く「自己発見キャリアプランニング～プリズムで広げる未来～」では、この二日間の経験や喜びの感情に焦点をもとに自己分析を行い、学生TAのサポートを受けながら具体的なキャリアプランを作成しました。



夕食後の交流会では、実行委員・外部評価委員、実験・ポスター展示に参加した研究者・技術者と交流しました。分野ごとにテーブルを配置し、立場を超えた相談やアドバイスから理工系への理解を一層深めました。





### <夏学3日目>

最終日には、二日目に作成したキャリアプランを「自己発見キャリアプランニング〜プリズムで広げる未来〜」で発表し合い、参加生徒はもとより、学生TA、研究者・技術者からアドバイスやエールが送られました。



その後の、「プリズムからその先へ」では、各担当グループの学生TAから三日間を振り返るメッセージ動画が送られました。参加生徒たちは感慨深く受け止めていました。

閉校式では参加生徒全員に修了証が授与され、夏学の閉校が宣言されました。初日は不安を抱いていた参加生徒たちもすぐに打ち解け、最終日には修了証を持ってお互いに写真を取り合ったり、連絡先を交換し、名残を惜しみながらそれぞれの帰路につきました。



参加生徒からは、「実際に理工系でバリバリ働いている人達の話詳しく聞いた事で、将来へのイメージがより鮮明に描けるようになった。」「理工系とは何をする事なのか具体的に知れて、実験やポスターを通して自分に合っているか見ることができた。」「夏学に参加して自分が知らないことを知ることができてよかった。また、新しく友達ができ話しやすい人たちが多かったから参加する事ができて良かった」という素敵な感想が多く寄せられました。

二泊三日という短い時間ではありましたが、理工系分野で活躍する研究者・技術者との交流を通して、理工系の魅力に触れたことで将来への不安を軽減し将来の具体的な姿をイメージすることに繋がりました。

また、最終日に開催した保護者向け企画では、アンコンシャスバイアスなどの問題提起、ロールモデルの紹介やワークショップを行いました。



今年の夏学は、NYCに場所を移しての初めての開催となりました。昨年までの国立女性教育会館からの変更に伴い、運営方法を含め多くの不安がありました。みなさまのご協力と柔軟な対応により、開催をすることができました。

来年は、今年の経験を踏まえ、皆さまとともに夏学をさらに発展・継続していきたいと考えております。

今後とも夏学への変わらぬご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



女子中高生夏の学校2025実行委員・協力団体のみなさま